

考羅濟難波濟萬葉集有狹野乃渡古今集有淀渡今俗呼渡場○中按說文濟水出常山房子贊皇山以爲濟渡字蓋假借

〔爾雅註疏七〕濟有深涉註謂濟渡之處濟細切深則厲淺則揭揭者揭衣也註謂褰裳也揭上二字音以衣涉水爲厲註衣謂禪繇膝以下爲揭繇膝以上爲涉繇帶以上爲厲註繇自也繇音由上

〔類聚名義抄水〕濟滻滲三俗音霽濟正、ワタル

渡音度ワタル

〔伊呂波字類抄地儀〕濟ワタス

渡泊已上同

〔字鏡集水〕濟滻同濟同沛同ワタリフ子セム渡舟

渡ワタル

〔易林本節用集和坤〕渡舟

橋

〔書言字考節用集一乾〕渡津也小路津紀日本

〔段注說文解字十一上〕渡濟也凡過其處皆曰渡假借多作度天體三百六十度謂所過者三百六十度聲徒故切十五从水度聲徒故切

〔合集解四貞〕民部省

津濟古記云上子都反論語使子路問津焉鄭玄曰津濟渡處也下子梯反尚書

津濟予往泉女夷其濟孔安國曰濟渡也凡泊處謂津渡處謂之濟此記可求

〔東雅三〕津河にもあれ海にもあれ水を渡るべき皆わたりといふ卽渡なり其義のごときは

不詳

〔倭訓栄前編四十二〕わたり濟をよめり渡す所なり○中そのわたり難波わたりなどいふはあたりに同じ

〔倭訓栄中編二十九〕わたらる渡をよめり回到の義なるべし亘も彌も同じわたらすは彼よりいたりに同じ

ふ詞なり

〔古事記傳十八〕渡とは海にまれ川にまれ渡行處を云後世の歌などに難波わん万葉一二丁に對馬